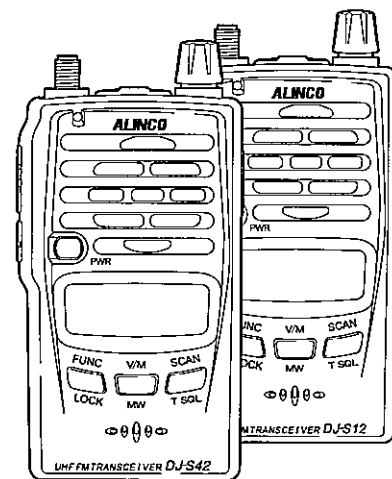
ALINCO

VHF/UHF FM TRANSCEIVER

DJ-S12/42

取扱説明書

アルインコFMトランシーバーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機の性能を充分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

本機は日本国内専用モデルです。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

アルインコ株式会社

アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号 八重洲セントラルビル4階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル7階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日及び12:00～13:00は除きます)
ホームページ http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」をご覧ください。

PS0529B

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

製品を安全にご使用いただくため､｢安全上のご注意｣をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が傷害を負う可能性が想定される内容､および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	△記号は､注意(危険･警告含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中には具体的な注意内容が描かれています。
	○記号は､行為の禁止であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
	●記号は､行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合はACアダプターをコンセントから抜いていただく強制内容)が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

警告

■使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください(電源も入れないでください)。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。

この製品を人命救助等の目的で使用して、万一、故障・誤動作等が原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■トランシーバー本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このトランシーバーは調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■チャージャーの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手でチャージャーのACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チャージャーのACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■安定化電源の使用について

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

安定化電源の電源プラグと他の製品の電源プラグをタコ足配線しないでください。

ぬれた手で安定化電源の電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

安定化電源の電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■シガーライターケーブルの使用について

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災・感電・故障の原因となります。

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

- ■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- ■ 内部に水や異物が入ったとき
- ■ ACアダプターのコードが傷んだとき(芯線の露出や断線など)

■保守・点検

本体やアクセサリーは、分解しないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■トランシーバー本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部スピーカー /マイクロホン端子にはオプションのスピーカー/マイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

■チャージャーの取扱いについて

チャージャーのACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。

チャージャーのACアダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン・アルコール・シンナー・洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■外部電源使用時の注意

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションのシガーDC/DCコンバーター（EDH-33）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

もくじ

※本書に記載するディスプレイの図はDJ-S12を元にしています。DJ-S42の場合、表示される周波数などが異なりますが運用状態を示すマークは共通です。

1. 機能と特徴

■小型軽量ボディで最大2Wの送信出力

■39種類のCTCSSトーンスケルチ機能

■VOX機能

■発信機探索機能

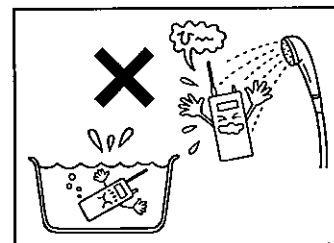
■ATT(アッテネーター)機能

■着信を知らせるベル機能

■3種類のスキャン機能

■クローン機能

■防水&頑丈ボディ[JIS保護等級7(防浸形)相当]

防水設計ではありますが、図のようなご使用は避けてください。なお、水、雪等が付いたときは手早くふき取ってください。
外部接続端子(イヤホン、マイク、外部電源)を使用している間、また電池カバーやゴムキャップを開けたままにしておくと防水にはなりません。ご注意ください。

1-1 標準付属品

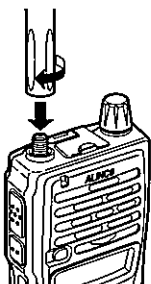
- EBP-60(リチウムイオンバッテリーパック)
- EDC-138A(急速充電スタンド/ACアダプターセット)
- アンテナ
- ベルトクリップ
- ハンドストラップ
- 取扱説明書
- 保証書

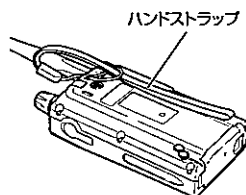
2. 付属品

2-1付属品の取り付け・取り外しかた

2-1-1 アンテナ

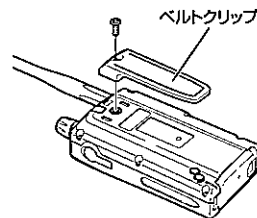
1 アンテナの根元を持ち、時計方向(右)にゆっくりと回します。
回転が止まりましたら確実に取り付けたことを確認してください。

2 取り外すときは、アンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。

2-1-2 ハンドストラップ

1 ハンドストラップを本体上後面部の穴に、図のように取り付けます。

2-1-3 ベルトクリップ

1 ベルトクリップを本体背面の図の位置に置きます。

2 ネジを時計方向(右)に回します。
回転が止まりましたら確実に取り付けたことを確認します。

3 取り外すときは、ネジを反時計方向(左)に回します。

2-1-4 バッテリーの入れ方

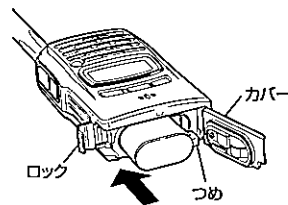
バッテリーの種類を変更した場合は、必ずバッテリータイプの設定を変更してください。(☞39ページ)

●リチウムイオンバッテリーパックの入れ方

1 ロックを外してカバーを開けます。

2 本機にリチウムイオンバッテリーパックを装着します。
バッテリーパックは、つめの位置を確認して、端子が奥になるように挿入してください。

3 カバーを閉めてロックをかけます。
きちんと閉まっていることを確認してください。

2

注意

リチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）使用上の注意

- オプションの充電池、バッテリーパックは出荷時には充分充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解や火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上の長時間の充電（過充電）は避けてください。バッテリーパックの性能を低下させる恐れがあります。
- バッテリーパックの保存は、－20℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- 所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため、燃えないゴミといっしょに捨てずに、電池回収協力店へご持参ください。

2

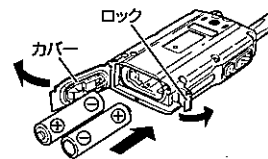
●単三アルカリ電池の入れ方

1 ロックを外してカバーを開けます。

2 市販の単三電池2本を、ケース内側の「＋」、「－」の表示にしたがってセットします。

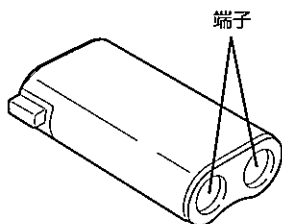
3 カバーを閉めてロックをかけます。

きちんと閉まっていることを確認してください。

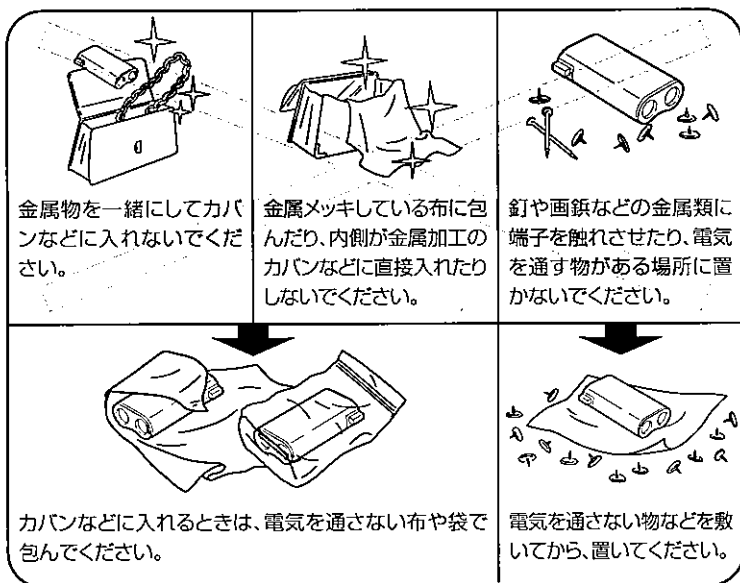
注意

単三電池使用上の注意

- +/－の向きが違わないように注意してください。
- 電池は同じ種類の新しいものを使用してください。（大容量のアルカリ電池の使用をおすすめします。）
- 長期間使用しない場合は電池を取り外してください。
- 電池の交換は、外部電源を外し、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

2-2 バッテリーパックのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

2-3 バッテリーパックの保管について

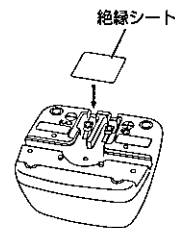
バッテリーパックを保管するときは、以下のことに注意してください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。	金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。	釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。
カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。		電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

2-4 リチウムイオンバッテリーパック(EBP-60)の充電方法

注意

ご使用になる前のご注意
- 付属の充電器は、当社のリチウムイオン(Li-ion)バッテリーパック専用ですので他の充電式電池や乾電池の充電には絶対に使用しないでください。
- 付属の充電器を他の機器の電源として使用しないでください。
- ACアダプターや充電器を分解しないでください。
- 金属片や針金、ピン等が充電器内部に入ったり、充電端子をショートさせたりしない様十分にご注意の上、お子さまの手の届かないところへ設置してください。
- 暖房機の近くや直射日光の当たる場所など高温になる所、またホコリや湿気の多い場所では使用しないでください。保管の際もなるべく乾燥した日光の当たらない所をお選びください。

●充電方法

1 初めてお使いになる前に充電スタンド裏側にある連結用端子に、安全のため付属の絶縁シートを貼ります。

2

2 付属のACアダプターのプラグを充電器のINPUT端子に差し込みます。

3 ACアダプターを家庭用電源AC100Vのコンセントへ接続します。

4 無線機本体にLi-ionバッテリーパックを装着します。
無線機の電源は必ずOFFにしてください。

5 無線機本体を図のようにスタンドに挿入します。

6 充電器の充電インジケーターが赤く点灯し充電が開始されます。

7 充電が完了すると充電インジケーターが消灯します。

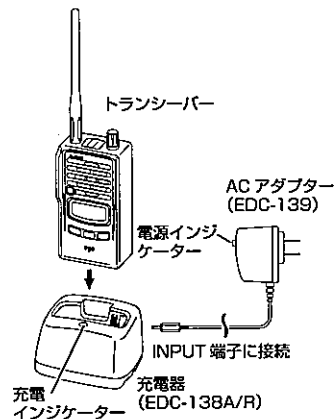
●充電時間

この充電器が使用できるバッテリーパックとその充電時間は次の通りです。

バッテリーパック	電池容量	充電時間
EBP-60	Li-ion 3.7V 1200mA	約4.0時間

充電時間は周囲の温度や充電状態により異なります。

参考：
・本機と同じ形状の筐体を使う特定小電力無線機DJ-R100D、P24,
P25シリーズ他の充電器では、本機の充電はできません。
充電電圧も、充電スタンドの回路構成も異なるためです。
・同様の理由で、外部電源端子で充電できる特小無線機とは異なり、
本機では外部電源端子から給電してもバッテリーパックは充電できません。

2

注意 充電時のご注意

- 充電中は、無線機の電源を必ずOFFにしてください。ONでは充電できません。
- この充電器は、周囲温度が0℃～+40℃の範囲で充電できるように設計されています。この範囲外では電池が充電出来ない場合があります。
- 電池の極性に十分注意をして、逆方向には絶対に挿入しないでください。
- 長時間ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから抜いて下さい。また、無線機は充電スタンドから取り外し、電池を抜いて涼しい乾燥した場所で保管してください。

●定格

定格入力	：DC6.0V 600mA
使用温度範囲	：0℃～+40℃
充電電流	：500mA

2-5 バッテリー残量表示

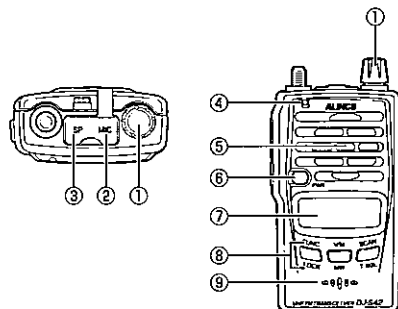
- 電池の残量表示は周囲温度や電池の使用頻度により多少異なることがあります。
- バッテリーの種類を変えた場合は、必ずバッテリータイプの設定を変更してください。(☞39ページ)
- 電池のマークが表示された場合は、速やかに充電または、電池交換をしてください。

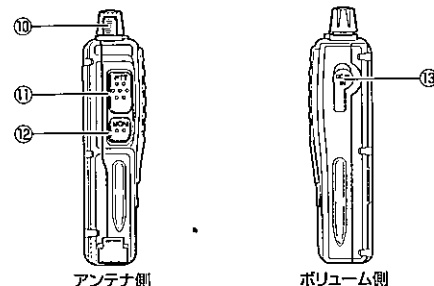
残量表示

電池の残量が少なくなると、電池のマークが表示されます。充電してください。

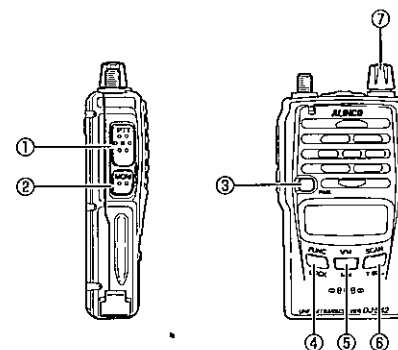
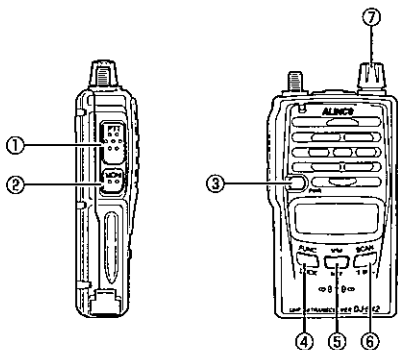
3. 各部の名称と操作

3-1 本体の名称と動作

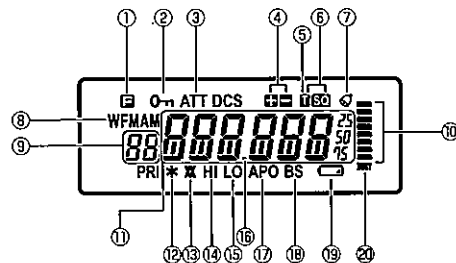
3-1-1 上面部、前面部

No.	名称	機能
①	ダイヤル	ダイヤルを回して周波数の変更など各種設定を行います。ダイヤルを押すと音量調整ができます。Fマーク点灯中にダイヤルを押すとセットモードに入ります(☞34ページ)。
②	外部マイク端子	2.5φステレオプラグで外部マイク(2KΩ)を接続します。
③	イヤホン端子	3.5φモノラルプラグでイヤホンや外部スピーカー(8Ω)を接続します。
④	送信/受信ランプ	スケルチが開いている時に緑色に点灯します。送信中、赤色に点灯します。
⑤	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。
⑥	電源スイッチ	約1秒間押すと電源のON/OFFができます。
⑦	ディスプレイ(LCD)	「ディスプレイの表示」を参照ください(☞24ページ)。
⑧	キーパッド	「キー操作」を参照ください(☞22ページ)。
⑨	マイク	マイクと口元は約5cm離してください。

3-1-2側面部

アンテナ側　　ボリューム側

No.	名称	機能
⑩	SMA アンテナコネクタ	付属のアンテナを取り付けます。別売のアンテナを使用する場合はSWR(Standing Wave Ratio)の低いアンテナを選んでください。
⑪	PTTキー	押すと送信します。離すと受信に替わります。
⑫	MONIキー	押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。トーンスケルチが設定されていてもスケルチは開きます。PTTを押しながらこのキーを押すとトーンコール信号を送信します。
⑬	DC電源ジャック	外部電源端子です。オプションのシガーライターケーブルEDH-33を接続し、車中で使用できます。なお外部電源を使用する場合はDC3.0～6.0V 2A以上の安定化電源を使用してください。

3-2 キー操作

No.	名称	単独の操作	FUNCキーを押した後の操作
①	PTT	送信もしくは、各種設定の完了	———
②	MONI	モニター機能	レピーター機能のON/OFF (☞53ページ)
③	POWER	電源のON/OFF	———
④	FUNC	ファンクション機能(Fマーク点灯)	ファンクション機能解除
⑤	V/M	VFO/メモリーモードの切り替え	———
⑥	SCAN	スキャン開始/中止(☞49ページ)	トーンスケルチ機能の設定(☞56ページ)
⑦	ダイヤル	周波数・音量・設定値変更	セットモード(☞34ページ)

No.	名称	キー長押し(約1秒)	キーを押しながらダイヤル操作	送信中の操作
①	PTT	———	———	———
②	MONI	———	スケルチレベルの設定(☞27ページ)	トーンコール呼び出し機能(☞54ページ)
③	POWER	電源のON/OFF	———	———
④	FUNC	キーロック機能のON/OFF (☞53ページ)	VFOモード時、1MHz単位で周波数の設定	———
⑤	V/M	メモリーチャンネルの登録/消去(☞29、31ページ)	メモリーの登録番号選択(☞30ページ)	———
⑥	SCAN	———	スキャンモードの設定(☞36ページ)	———
⑦	ダイヤル	アッテネーター機能のON/OFF (☞33ページ)	———	———

3-3 ディスプレイの表示

No.	名称	機能
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	O-ㄲ	キーロック設定時に点灯します。
③	ATT	アッテネーター設定時に点灯します。
④	+−	シフト方向、スプリット設定を表示します。
⑤	T	トーンエンコード動作時に点灯します。
⑥	TSQ	トーンスケルチ動作時に点灯します。
⑦	ベル	BELL機能設定時に点灯します。
⑧	W	メモリーチャンネル登録/消去操作中に点灯または点滅します。
⑨	88	メモリーチャンネルNo.や各設定状態を表示します。
⑩	レベルメーター	受信レベルを表示します。送信パワーを表示します。
⑪	888.888	送信・受信周波数や各設定内容等を表示します。
⑫	*	発信機探索機能設定時に点灯します。
⑬	✕	レピーター機能がONのときに点灯します。
⑭	HI	送信パワーがHIのときに点灯します。
⑮	LO	送信パワーがLOのときに点灯します。

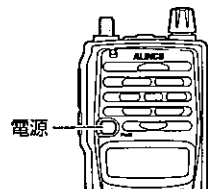
No.	名称	機能
⑯	●	周波数やスキャン動作を表示します。
⑰	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑱	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑲	電池	電池残量が少なくなると点灯します。
⑳	BUSY	スケルチが開くと点灯します。

4. 基本的な使いかた

本機を使用する上で基本となる操作を説明します。

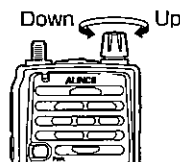
4-1 基本操作

4-1-1 電源を入れる

PWRキーを約1秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

4-1-2 周波数を設定する

ダイヤルを回すと、設定されているステップで周波数が増減します。

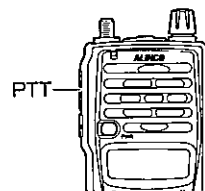
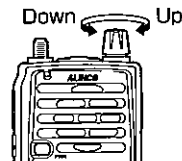
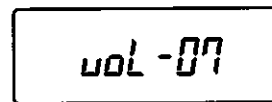
●周波数を1MHzずつ増減させる
FUNCキーを押しながらダイヤルを回すと1MHzずつ周波数が増減します。

注意

FUNCキーを押してから1秒間以内にダイヤルを回さないとキーロックになります。

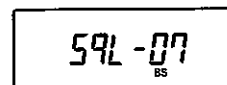
4-1-3 音量を調整する

1 ダイヤルを押します。
音量レベルが表示されます。
初期値は「7」です。

2 ダイヤルを回し、音量レベルを調整します。
音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。音量調整は0～20までの21段階です。

3 ダイヤルかPTTキーを押し、設定を完了します。

4-1-4 スケルチを調整する

スケルチとは、受信信号のないときに出る「ザー」というノイズ音をカットする機能です。
「スケルチが開く」とは、信号を受信して受信音を出すことができる状態を示します。

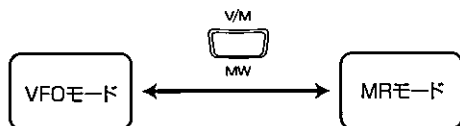
1 MONIキーを押しながらダイヤルを回します。
スケルチレベルが表示されます。
初期値は「7」です。

2 ダイヤルを回してスケルチレベルを調整します。
スケルチレベルは0～20までの21段階です。設定値を大きくすると弱い信号は音が途切れたり、全く受信できないことがあります。通常はノイズが消える最小のレベルに設定します。周波数や電波環境により調整が必要になります。

3 MONIキーを離すかPTTキーを押し、設定を完了します。

4-1-5 運用モード

運用モードには「VFOモード」と「MR(メモリー)モード」の2種類があります。

●運用モードの切り替え

「VFOモード」と「MRモード」はV/Mキーで切り替えます。
「MRモード」時はディスプレイにメモリー番号が表示され、「VFOモード」時には表示されません。

メモリーチャンネルに何も登録されていないときは、メモリーモードに移行できません。

4. 基本的な使いかた

4-2 メモリーモード

あらかじめ登録しておいた周波数や設定を呼び出して運用するモードです。本機は100個のメモリーチャンネル(0~99CH)を持っています。

4-2-1 メモリーチャンネルの登録

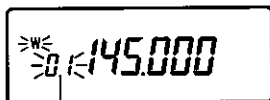
1 V/Mキーを押しVFOモードにします。

2 登録したい周波数を選択し、必要に応じて各機能を設定します。

3 ディスプレイに"W"が点灯するまでMWキーを押し続けます。

4 MWキーを離すと未登録の最も若いメモリーNo.にVFO周波数が登録され、完了ビープ音が鳴ります。

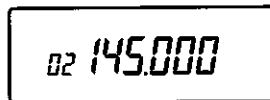
●メモリー No.を選択して登録する場合

1 V/Mキーを押しVFOモードにします。

メモリーNo.

2 登録したい周波数を選択し、必要に応じて各機能を設定します。

3 MWキーを押しながらダイヤル操作をし(MWキーを押してすぐにダイヤル操作をしてください)、登録したいメモリー No.を選択します。

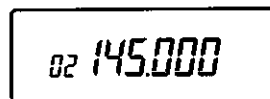
ディスプレイに"W"が点灯し、メモリー No.が点灯(メモリーチャンネル登録済)もしくは点滅(メモリーチャンネル未登録)します。

4 MWキーを離すと選択されたメモリー No.にVFO周波数が登録され、完了ビープ音が鳴ります。

メモリー登録時の上書き設定についてはメモリー上書き(☞37ページ)を参照してください。

4-2-2 メモリーチャンネルの呼出し

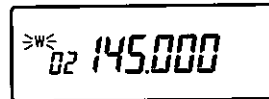
1 V/Mキーを押し、メモリーモードにします。

V/Mキーを押すごとにメモリーモードとVFOモードが切り替ります。

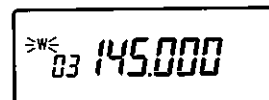
メモリーモード：ディスプレイのメモリー No.が点灯します。

メモリーモード

メモリーに何も登録されていない場合はメモリーモードにはなりません。
ダイヤルを回すと、メモリー No.が増減します。

4-2-3 メモリーチャンネルの消去

1 V/Mキーを押しメモリーモードにします。

2 ダイヤルを操作し消去したいメモリー No.を選択します。

3 MWキーをディスプレイに"W"が点滅するまで押し続けます。

4 再度、MWキーを押すとビープ音が鳴り、メモリーが消去されます。

4-2-4 メモリー登録できる内容

メモリーチャンネル0～99には、下記の内容をメモリーすることができます。

- 周波数
- シフト周波数
- シフト方向(+/-)
- トーン周波数
- トーンエンコーダ/デコーダ設定
- スキップCH設定
- ビジーチャンネルロックアウト(BCLO)
- 発信機探索機能設定

4-2-5 チャンネル表示モード

このモードは、メモリーチャンネルの周波数を、メモリーチャンネル番号に切り替えて運用するモードです。
このモードを使用する前にメモリーチャンネルを登録しておいてください。

・CH表示モード中はセットモードに入ることはできません。
・この設定をするとリセット、オールリセットはできなくなります。
リセットするには下記の操作を繰り返して、CH表示モードを解除してください。
・災害ボランティア等、CHを決めて通信するようなときに使うと便利です。

1 FUNCキーとMONIキーとSCANキーを押しながら電源を入れます。

2 チャンネル表示モードを解除するには、再度手順1の操作をしてください。

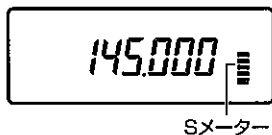
このモードでは、MONIキー・PTTキー・キーロック機能・ATT(アッテネーター)機能・メモリースキャン機能・スケルチ機能・音量調整・送信パワー切替(このモード時のみ、FUNCキーを押しながらダイヤルを回します。)の操作のみ有効です。

4-3 受信するには

1 音量を調整します。(☞27ページ)

2 スケルチを調整します。(☞27ページ)

3 希望の周波数を選択します。(☞26ページ)

希望の周波数で信号が受信されると、ディスプレイのBUSYが点灯し信号の強さに応じて、Sメーターが点灯します。またこのとき、緑色のLEDが点灯します。

4-3-1 モニター機能

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きづらいときにスケルチを一時的に解除する機能です。

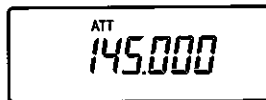
- MONIキーを押している間だけスケルチレベルの設定状態に関係なくスケルチ動作が解除され、スピーカーから音が聞こえます。
- トーンスケルチ機能が設定されていても、この機能を使うとスケルチを解除することができます。

4-3-2 ATT(アッテネーター)機能

信号が強過ぎる時や、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合に動作させると聞きやすくなることがあります。

ダイヤルを約1秒間押し続けて、ATT(アッテネーター)機能のON/OFFを切り替えます。ATT(アッテネーター)機能のON時は、ディスプレイに[ATT]マークが点灯します。

初期値は[OFF]です。

※ATT機能を動作させるにはセットモードのATT設定を[ON]にしてください。(☞48ページ)

4-4 送信するには

1 希望の周波数を選択します。

2 PTTキーを押すと、赤色の送信ランプが点灯し送信状態となります。

3 PTTキーを押しながら、本体前面部の内蔵マイクから口元を5cm程離して普通の大きさの声で話します。

4 PTTキーをはなすと送信が終了し受信状態になります。

- 送信周波数範囲外でPTTキーを押すとディスプレイに「oFF」が表示されます。この状態では送信することはできません。
- シフトやスプリットが設定されている場合、受信と送信の周波数が異なりますのでご注意ください。

参考

送信可能周波数範囲
S12　144.000~145.995MHz
S42　430.000~439.995MHz

5. セットモード

本機ではセットモードを使用して色々な機能を用途に応じて設定することができます。

5-1 セットモードの設定方法

1 FUNCキーを押し、F点灯中にダイヤルを押します。
セットモードに切り替わります。

2 ダイヤルを押すたびに項目が順次変わります。
MONIキーを押すと逆の順に変わります。(左端に表示される小さな2桁の数字は項目番号です。)

3 設定したい項目で、ダイヤルを回して設定内容を変更します。

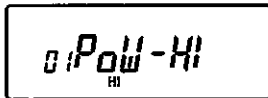
4 PTTキーを押して、設定を終了します。

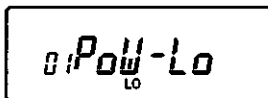
5-2 セットモード

5-2-1 送信パワー切替

送信パワーを設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[HI]です。

01 PoW-HI
HI

2 ダイヤルを回すたびに送信出力が切り替り、設定が変更されます。

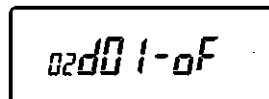
01 PoW-Lo
LO

5-2-2 発信機探索機能

特定の発信機の信号を受信し、その信号の強さで発信機までの距離を相対的に推測して探索する機能です。
その発信機の信号が強く受信するほど音色が高くなり、また短い間隔で鳴ります。
フォックスハンティングなどにお使いください。

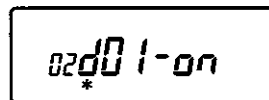
注意

この機能はメモリーチャンネルと連動します(VFOモード、メモリー登録がないときは設定できません)。登録したいメモリーチャンネルを選んで、メモリーモードの状態でセットモードに入ってください。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です。

02 d01-oF

メモリーNo.1の設定がOFFの場合

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。
メモリー登録時、発信機探索機能は初期設定されません。

02 d01-on

メモリーNo.1の設定がONの場合

参考

・発信機が近い場合や発信機の信号が強い場合は、ATT(アッテネーター)機能(☞33ページ)をONにしてお使いください。
・市販の指向性アンテナを接続すると方角を推測することができます。

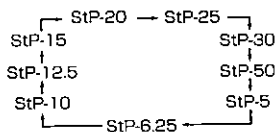
5-2-3 周波数ステップ設定

VFOモードのみの機能です。VFOモードで周波数を変更する時の最小ステップを設定します。

1 ディスプレイに現在の設定値が表示されます。
初期値は［10kHz］です。

03StP-10

2 ダイヤルを回すたびに、表示が右のように切り替り、設定が変更されます。

StP-20 → StP-25 → StP-30 → StP-50 → StP-5 → StP-6.25 → StP-10 → StP-12.5 → StP-15 → StP-20

5-2-4 スキャンタイプ選択

タイマースキャンとビジースキャンを切り替えます。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[b]（ビジースキャン）です。
（☞49ページ）

04SCAn-b

ビジースキャン設定の場合

2 ダイヤルを回すたびにt/bが切り替り、設定が変更されます。
[t]はタイマースキャン[b]はビジースキャンです。

04SCAn-t

タイマースキャン設定の場合

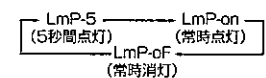
5-2-5 ランプ点灯

ディスプレイの照明が点灯する時間を設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［5］です。（PTT以外のキー操作をすると5秒間、照明が点灯します）

05LmP- 5

2 ダイヤルを回すたびに表示が右のように切り替り、設定が変更されます。

LmP-5（5秒間点灯） → LmP-on（常時点灯） → LmP-oF（常時消灯） → LmP-5

5-2-6メモリー上書き

メモリー登録時の上書きのON/OFFを設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。
メモリーの上書きは禁止されています。

06WP-oFF

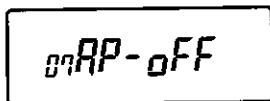
2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

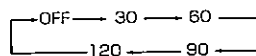
06WP-on

5-2-7オートパワーオフ(APO)機能

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能を設定します。
APOが設定されているときに無操作の状態が設定時間続くと、ビープ音が鳴り、自動的に無線機の電源が切れます。

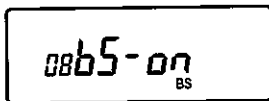
1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期設定は[OFF]です。

07AP-oFF

2 ダイヤルを回すたびにAPO時間が切り替り、設定が変更されます。
APO時間は、30分から120分まで、30分単位で設定できます。

OFF → 30 → 60 → 90 → 120

5-2-8 バッテリーセーブ機能

バッテリーセーブ機能をONにすると、キー操作をしない状態や、信号を受信しない状態が5秒間以上続くと、一定の比率で機器を休止状態にし、電池の無駄な消耗を防ぐことができます。

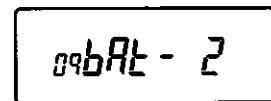
1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期設定は[ON]です。

08bS-on BS

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

5-2-9 バッテリータイプ選択

装着されているバッテリーのタイプを設定することで、電池の種類に合わせた残量で残量表示されます。
電池の種類を変更したときは、設定しなおしてください。
[bAt-1]: 単三アルカリ電池
[bAt-2]: EBP-60(リチウムイオンバッテリーパック)

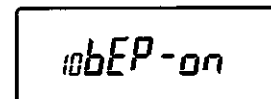
1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期設定は[bAt-2]です。

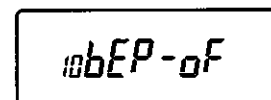
09bAt - 2

2 ダイヤルを回すたびにバッテリータイプが切り替り、設定が変更されます。

5-2-10 ビープ音設定

キー操作時に鳴るビープ音のON/OFFを設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[ON]です。

10bEP-on

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替ります。

10bEP-oF

設定がOFFの場合

5-2-11 ベル機能

信号を受信したときベル音とディスプレイのベルマークの点滅で受信を知らせます。
応答のためPTTキーを押して送信するとベルマークは点灯に変わります。
5秒間以上、送信も受信もない場合、再度ベル機能が働きます。

11bEL-oF

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が表示されます。

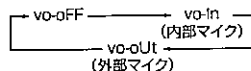
11bEL-on

5-2-12 VOX機能

マイクに音声が入れば送信、音声がなくなれば受信に切り替わります。PTTを押さなくても自動的に送受信を切り替える機能のON（内部マイク/外部マイク）/OFFを設定します。
ハンズフリーでの交信が可能になり両手が使えない時などに便利です。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

12uo-oFF

2 ダイヤルを回すたびに表示が右のように切り替り、設定が変更されます。

注意
・この設定をONに設定した場合は、V/Mキーを押して設定を終了します。
・この設定をONに設定した場合は、この設定とVOX感度のみの設定しかできません。

5-2-13 VOX感度

VOXマイクの感度を設定します。（値が大きい程感度が良くなります）

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［1］です

13uLu-01

2 ダイヤルを回すたびに1～9の9段階で切り替り、設定が変更されます。

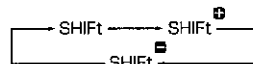
小さな声やまわりの音でも送信されることがあります。

5-2-14 シフト方向設定

送信周波数を受信周波数に対してオフセット周波数幅分シフトする方向を設定します。

1 ディスプレイに現在の設定値が表示されます。
初期値は［OFF］です。

14SHIFt

2 ダイヤルを回すたびに表示が右のように切り替り、設定が変更されます。
レピーター設定時はシフト方向（レピーター機能用）（☞46ページ）を参照してください。

5-2-15 オフセット周波数設定

シフトする周波数幅を設定する機能です。
0~99.995MHzの範囲で設定します。
メモリーモードでは設定できません。

1 **ディスプレイに現在の設定値が表示されます。**
初期値はS12［0.6MHz］、S42［5.00MHz］です。

15 05.000

2 **ダイヤルを回すたびに周波数ステップずつ増減し、設定が変更されます。**
FUNCキーを押しながらダイヤルを回すとオフセット周波数は1MHzずつ増減します。
レピーター設定時はオフセット周波数(レピーター機能用)(☞47ページ)を参照してください。

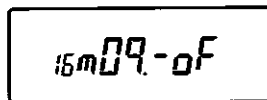
5-2-16 スキャンスキップチャンネル設定

メモリースキャン時に、スキャンしないメモリー No.を設定します。

この機能はメモリーチャンネルと連動します（VFOモード、メモリー登録がないときは設定できません）。登録したいメモリーチャンネルを選んで、メモリーモードの状態でセットモードに入ってください。

1 **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**

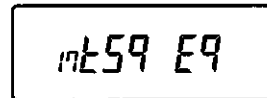
16m09.-oF

メモリー No.9の設定がOFFの場合

2 **ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。**
メモリー登録時、スキャンスキップは初期設定されません。

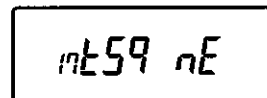
5-2-17 T/TSQ変更方法

トーン設定とトーンスケルチ設定のトーン周波数を同じにするか、別々にするかを設定します。

1 **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**
初期値は［Eq］です。

nt59 Eq

トーン設定とトーンスケルチ設定のトーン周波数を同じにする場合

2 **ダイヤルを回すたびにEq/nEが切り替り、設定が変更されます。**

nt59 nE

トーン設定とトーンスケルチ設定のトーン周波数を別々にする場合

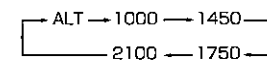
5-2-18 トーンコール音切り替え

1 **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**
初期値は［ALT］です。

18 ALt

2 **ダイヤルを回すたびに右のように表示が切り替り、設定が変更されます。**
周波数表示の単位はHzです。

ALT → 1000 → 1450 → 1750 → 2100 → ALT

5

5-2-19 タイムアウトタイマー(TOT)機能

連続して送信できる時間を制限する機能です。設定された時間の10秒前にビープ音が鳴り、無線機は自動的に受信状態になります。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です。

19to-oFF

2 ダイヤルを回すたびにTOT時間が切り替り、設定が変更されます。
TOT時間は30秒から450秒まで、30秒単位で設定できます。

OFF → 30 → 60 → 90 → 120 ……→ 450 → OFF

5

5-2-20 スタンバイビープ機能

送信終了時、PTTキーを離すとビープ音を送信して相手に送信終了を知らせます。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です

20Stb-oF

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

5-2-21 ビジーチャンネルロックアウト(BCLO)機能

受信状態に応じて送信を制限する機能です。
BCLOがONに設定されていると次の場合のみ送信が可能になります。それ以外では送信することができません。
① 信号が入感していない場合([BUSY]が消灯している状態)。
② トーンスケルチ設定状態でトーンが一致してスケルチが開いた場合。
※ 送信が禁止されている状態でPTTキーを押すとビープ音が鳴ります。この時は送信されません。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です

21bCL-oF

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

5

5-2-22 外部端子制御設定

スケルチON時に外部MIC端子から3Vを出力する機能です。
信号を受信する(トーンスケルチ設定時はトーン一致)と外部MIC端子から3V(5mA MAX)が出力されます。外部接続機器の制御等にご使用ください。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です

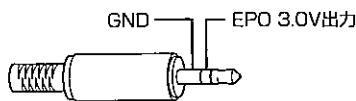
22EPo-oF

2 ダイヤルを回すたびにON-OFFが切り替り、設定が変更されます。

22EPo-on

設定がONの場合

注意

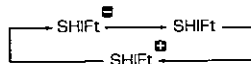
EPO-ON設定時は、オプションのVOX付きマイク(EME-12,EME13,EME-15)は使用できません。

2.5øステレオプラグ

5-2-23 シフト方向(レピーター機能用 ☞53ページ)

レピーター設定時のシフト方向を設定します。
(内容は、5-2-14を参照)

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[-]です。

23SHIFt

2 ダイヤルを回すたびに表示が右のように切り替り、設定が変更されます。

5-2-24 オフセット周波数(レピーター機能用 ☞53ページ)

レピーター設定時のオフセット周波数を設定します。
(内容は、5-2-15を参照)

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値はS12[0.6MHz]、S42[5.00MHz]です。

24 05.000

2 ダイヤルを回すたびに周波数ステップずつ増減し、設定が変更されます。
FUNCキーを押しながらダイヤルを回すとオフセット周波数は1MHzずつ増減します。

5-2-25 トーン有/無(レピーター機能用 ☞53ページ)

レピーター設定時のトーンENC(エンコーダー)有無を設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[トーン有]です。

25tonE

2 ダイヤルを回すたびにトーン有/無が切り替り、設定が変更されます。

25tonE

5-2-26 トーン周波数(レピーター機能用☞53ページ)

☞53ページ

レピーター設定時のトーンENC(エンコーダー)周波数を設定します。

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[88.5Hz]です。

26 88.5

2 ダイヤルでトーン周波数を変更します。

5-2-27 ATT(アッテネーター)設定

ATT(アッテネーター)機能のON/OFF切り替えを可能にするかを設定します。(☞33ページ)

1 ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は[OFF]です。

2 ダイヤルを回すたびにON/OFFが切り替わり、設定が表示されます。
[OFF]状態ではアッテネーター機能をONにできません。

注意 アッテネーターはキーロック時でもON/OFFできます。

下のセットモード一覧表は切り取ってご使用ください。

キリトリ線

セットモード一覧表

項目番号	初期表示	機能内容
01	PoW-HI	送信パワー切替
02	d**-oF	発信機探索機能
03	StP-10	周波数ステップ設定
04	SCAn-b	スキャンタイプ選択
05	LmP-5	ランプ点灯
06	WR-oFF	メモリー上書き
07	AP-oFF	オートパワーオフ(APO)機能
08	bS-on	バッテリーセーブ機能
09	bAt-2	バッテリータイプ選択
10	bEP-on	ビープ音設定
11	bEL-oF	ベル機能
12	vo-oFF	VOX
13	vLv-01	VOX感度
14	SHIFt	シフト方向設定

項目番号	初期表示	機能内容
15	00.600(S12) 05.000(S42)	オフセット周波数設定
16	m**-oF	スキャンスキップチャンネル設定
17	tSq Eq	T/TSQ変更連動設定
18	Alt	トーンコール音切り替え
19	to-oFF	タイムアウトタイマー(TOT)機能
20	Stb-oF	スタンバイビープ機能
21	bCL-oF	ビジーチャンネルロックアウト(BCLO)機能
22	Epo-oF	外部端子制御設定
23	SHIFt	シフト方向(レピーター)
24	00.600(S12) 05.000(S42)	オフセット周波数(レピーター)
25	TonE	トーン有/無(レピーター)
26	88.5	トーン周波数(レピーター)
27	Att-oF	ATT(アッテネーター)設定

キリトリ線

6. 便利な機能

6-1 スキャン機能

自動的に受信周波数を切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。スキャンの種類はビジースキャンとタイマースキャンがあります。初期状態はビジースキャンです。
ビジースキャンとタイマースキャンの切り替えはセットモードで行います。(☞36ページ)

ビジースキャン
スキャン停止後、受信信号が無くなれば次のチャンネルに移ります。

タイマースキャン
スキャン停止後、受信信号があっても5秒経過すると次のチャンネルに移ります。

- スキャン中は表示部の小数点が点滅します。
- スキャン中、MONIキーを押すと、スキャンが一時停止し、スケルチが開きます。はなすとスキャンが再開されます。
- スキャン中にダイヤルでスキャン方向を変更できます。
  再度スキャンするときのスキャン方向は、最後に操作した方向になります。
- スキャンはSCANキーまたはPTTキーで解除できます。

5-2-27 アッテネーター機能の追記

初期の本製品にはこの項目が無いものがあります。
その時は、ダイヤルを長押しするとアッテネーターのオンオフができます。オンの時はATTが液晶に表示されます。

6-1-1 VFOスキャン

VFOモードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定した周波数でステップスキャンします。

1 V/MキーをしてVFOモードにします。

145.000

VFOモード

2 SCANキーを押しながら、ダイヤルを回して表示を“vFo”に合わせます。

vFo

3 SCANキーをはなします。
スキャンが開始され、最後に操作した方向へ周波数ステップ単位でスキャンします。

4 ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。

5 SCANキーまたはPTTキーを押すと、スキャンは止まります。

6-1-2 メモリースキャン

あらかじめメモリーチャンネルに書き込んでおいた周波数だけをスキャンします。

1 V/Mキーを押してメモリーモードにします。

メモリーモード

2 SCANキーを押します。
「mEmoRY」が表示されます。

3 SCANキーをはなします。
メモリースキャンが開始されます。

4 ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。

5 SCANキーまたはPTTキーを押すと、スキャンは止まります。

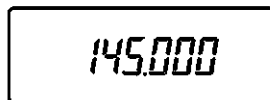
6-1-3 スキップチャンネル設定

スキップチャンネルに設定されたメモリーチャンネルは、メモリースキャン時にスキャンの対象から外されます。設定方法はスキャンスキップチャンネル設定(☞42ページ)を参照してください。
スキップチャンネルが設定されたメモリーチャンネルは小数点が消灯します。

メモリーNo1の設定がONの場合

6-1-4 トーンスキャン

受信電波に含まれるトーン周波数を自動的に探し出す機能です。

1 VFOモードで、トーンを知りたい受信周波数に合わせます。

VFOモード

2 SCANキーを押しながらダイヤルを回して、表示を"tonE"に合わせます。

3 SCANキーをはなします。

トーンスキャンが開始され、トーン周波数表示が変わっていきます。
トーンが発見されると、ビープ音が鳴りトーンスキャンが停止します。
トーン周波数が発見されても設定は、自動的に変更されません。

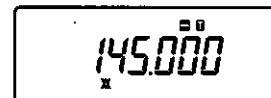
4 ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。

5 SCANキーまたはPTTキーを押すと、スキャンは止まります。

トーンが見つからない場合は、いつまでもスキャンし続けます。
中断したい場合や停止したい場合には、SCANキーまたはPTTキーを押してください。

6-2 レピーター機能

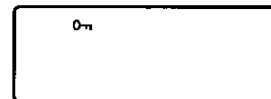
遠く離れた局とも交信できるように、ビルの屋上や山頂にレピーター(自動中継局)が設置されています。このレピーターを経由すると送信出力が低くても遠い相手と交信できます。

1 V/Mキーを押しVFOモードにします。

2 Fキーを押し、Fマーク点灯中にMONIキーを押します。
ディスプレイに"XX"が点灯し、レピーター機能が設定されます。

3 レピーターを解除するには、手順2を繰り返し"XX"を消灯させます。

シフト方向やトーンの有/無等の設定項目は、シフト方向(レピーター機能用)(☞46ページ)やトーン有無(レピーター機能用)(☞48ページ)を参照してください。DJ-S42では、これらの設定は日本のアマチュア・レピーターに合わせて初期設定されています。

6-3 キーロック機能

運用中や携帯中に誤って操作されることを防ぐ機能です。
設定方法は2通りあります。

①FUNCキーを約1秒間押し続けて、キーロック機能のON/OFFを切り替えます。

②MONIキーを押しながらFUNCキーを3回押して、キーロック機能のON/OFFを切り替えます。

- キーロック時は、ディスプレイに O-r マークが点灯します。
- キーロック時でも、PTT、MONIキー、VOL、SQL、ATTのON/OFF、電源のON/OFF、キーロックの解除の各操作が可能です。
- キーロックの解除は、①で設定した場合は①でのみ解除でき、②で設定した場合は、②でのみ解除できます。

6-4 トーンコール呼出し機能

送信電波にトーン信号を付加して、相手の注意をひく機能です。
PTTキーを押しながらMONIキーを押している間、トーン信号が送信されます。
トーンコールの音種はセットモードで選択できます(☞43ページ)。

注意

トーンENC信号と併用できません。トーンコール呼出し中はトーンENC信号は送出できません。

7. 選択交信機能

特定の局と交信する場合にトーンスケルチ(CTCSS)機能を使用します。
トーンスケルチとは交信時、自局で設定したトーン周波数と相手局の設定したトーン周波数が一致したときにスケルチが開き受信できる機能です。
選択できるトーン周波数は次の39種類です。

No.	周波数	No.	周波数	No.	周波数	No.	周波数
01	67.0	11	94.8	21	131.8	31	186.2
02	69.3	12	97.4	22	136.5	32	192.8
03	71.9	13	100.0	23	141.3	33	203.5
04	74.4	14	103.5	24	146.2	34	210.7
05	77.0	15	107.2	25	151.4	35	218.1
06	79.7	16	110.9	26	156.7	36	225.7
07	82.5	17	114.8	27	162.2	37	233.6
08	85.4	18	118.8	28	167.9	38	241.8
09	88.5	19	123.0	29	173.8	39	250.3
10	91.5	20	127.3	30	179.9		

7-1 トーンスケルチ機能

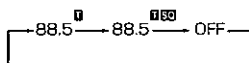
トーンスケルチ機能を使うと、設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

1 FUNCキーを押したあと、[F]点灯中にTSQLキーを押します。

TSQLキー押すたびにディスプレイの表示が右のように変わります。

88.5 → 88.5 T → 88.5 TSQ → OFF

2 ダイヤルでトーン周波数を変更します。

88.5 TSQ

3 PTTキーを押すと設定を終了し通常表示に戻ります。

[T]点灯時 ： 送信するときにトーン設定したトーン周波数を付加します。

[TSQ]点灯時 ： トーンスケルチ設定したトーン周波数で待ち受けます。
送信するときはトーンスケルチ設定時と同じトーンを付加します。

OFF時(点灯なし) ： 設定しない状態です。

参考

・MONIキーを押すと、設定中でもモニター動作をします。

・トーン設定とトーンスケルチ設定のトーン周波数を別々に設定したい場合はT/TSQ変更方法(☞43ページ)を参照してください。この時「T」時に表示されるのがトーン設定の周波数になり、「TSQ」時に表示されるのがトーンスケルチ設定のトーン周波数になります。

周波数の高いトーン周波数では、音声の周波数成分で誤動作することがあります。誤動作を少なくするためにも、必ず通常のスケルチも併用してください。

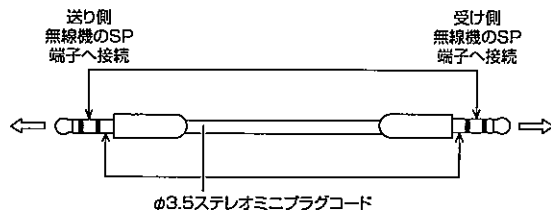
8. クローン機能・パケット通信

8-1 クローン機能

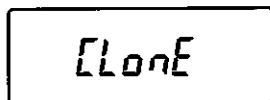
クローン機能とは、2台の無線機をケーブルで接続し、1台に設定している情報(メモリーデータを含む)を他(受け側)の無線機に転送してコピーする機能です。

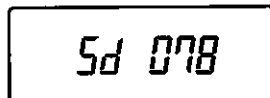
8-1-1 接続方法

図の様に、送り側および受け側の2台の無線機の外部スピーカ端子を市販のφ3.5ステレオミニプラグコードで接続します。
接続したら両機の電源をONにしてください。

ケーブルの接続は、必ず本体の電源をOFFにした状態で行ってください。

8-1-2 データを送る側の操作

1 **MONIキーを押しながらPTTキーを3回押します。**
ディスプレイに「CLONE」が表示され、クローンモードになります。

CLonE

2 **PTTキーを押します。**
ディスプレイに「Sd　＊＊＊」と表示され、内部の設定情報をもう一方の無線機に転送します。

Sd 078

転送が完了したら、「PASS」と表示されます。

PASS

転送された場合

「PASS」表示からPTTキーを押すと再度転送されます。
データが正常に転送されなかった場合はディスプレイに「PASS」は表示されません。再度手順１からやり直してください。

3 **クローンモードを解除するには、電源をOFFにします。**

注意
ケーブルが正常に接続されていない場合は、ディスプレイに「ERR」と表示されます。
ケーブルの接続を再度確認してください。

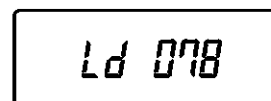
8-1-3 データを受け取る側の操作

受け取る側はクローンモードにする必要はありません。

1 **送信側からデータが送られてくるとディスプレイに「Ld　＊＊＊」と表示されます。**
転送が完了したら、「End」と表示されます。

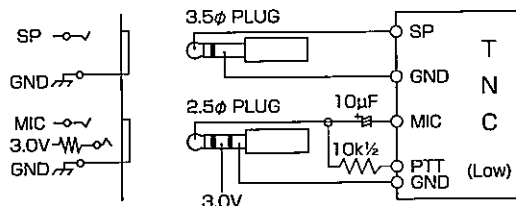
Ld 078

2 **本体の電源をOFFにします。**

注意

- データ転送中はケーブルを抜かないでください。
- クローン機能を使用してデータを転送すると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き換わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。
- 「End」が表示されない場合は、データーを受け取る側を一度リセットしてください。(☞61ページ)

8-2 パケット通信

パケット通信とは、パソコンとTNCを使用して送受信の操作をするデータ通信のひとつです。

8-2-1 パケット通信の接続

内部の3Vラインから100Ωの抵抗を通して電圧が供給されます。

本機でパケット通信するときは、上記のように接続します。
パケット通信用TNC（市販オプション：Terminal Node Controller）の各端子と接続するときは、本体上面部のSP端子に3.5φプラグ、MIC端子に2.5φの小型プラグを使用してください。

- 入力レベルの調節：本機のMIC端子には入力レベルを調節する機能はありません。TNC側で入力レベルを調整してください。
- 出力レベルの調節：SP端子からの出力レベルは本体側のボリュームで調節してください。

注意

- TNCとパソコンなどとの接続方法は、TNCの取扱説明書に従ってください。
  また、パソコン、TNC、本機との距離が近すぎると、ノイズが発生することがあります。その場合はできるだけ離してお使いください。
- パケット通信を行うときにはバッテリーセーブ機能をOFFにしてください。
- 1200bps以下でご使用ください。

9. 保守・参考

9-1 リセット

リセットをすると、各種の設定内容が工場出荷時の初期値に戻ります。

9-1-1 オールリセット

メモリーおよび各種設定がすべて工場出荷時の初期値に戻ります。

1. FUNCキーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
2. ディスプレイの表示がすべて点灯している間に、FUNCキーを離します。

9-1-2 パートリセット

メモリーの登録内容は保持し、それ以外の各種設定がすべて工場出荷時の初期値に戻ります。

1. FUNCキーを押しながら電源を入れます。
2. ディスプレイの表示がすべて点灯している間に、FUNCキーを離します。

工場出荷時の初期値

	DJ-S12	DJ-S42
VFO周波数	145.000MHz	433.000MHz
トーンエンコーダ周波数	88.5Hz	88.5Hz
トーンスケルチ周波数	88.5Hz	88.5Hz

	DJ-S12	DJ-S42
スケルチ	7	7
音量	7	7
送信パワー	HI	HI
発信機探索機能	OFF	OFF
周波数ステップ	10.0kHz	10.0kHz
スキャンタイプ	ビジー	ビジー
ランプ点灯	ON(5sec)	ON(5sec)
メモリー上書き	禁止	禁止
APO	OFF	OFF
バッテリーセーブ	ON	ON
バッテリータイプ	2(Li-ion)	2(Li-ion)
ビープ	ON	ON
ベル	OFF	OFF
VOX	OFF	OFF
VOX感度	1	1
シフト周波数	0.600MHz	5.000MHz
T/TSQ変更連動設定	連動	連動
トーンコール音	ALT	ALT
TOT	OFF	OFF
スタンバイビープ	OFF	OFF
BCLO	OFF	OFF
EPO	OFF	OFF
シフト方向(レピーター機能用)	マイナス	マイナス
シフト周波数(レピーター機能用)	0.600MHz	5.000MHz
トーン有/無(レピーター機能用)	ON	ON
トーン周波数(レピーター機能用)	88.5Hz	88.5Hz
ATT(アッテネーター)設定	OFF	OFF

9-2 オプション一覧

EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-138A	急速充電スタンド/ACアダプターセット
EDC-138R	急速充電追加スタンド
EDC-139	ACアダプター単体
EDH-33	シガー DC/DCコンバーター
EMS-59	スピーカーマイク
EME-12A	VOX付きヘッドセット(ヘッドホンタイプ)
EME-13A	VOX付きヘッドセット(インナータイプ)
EME-15A	VOX付きタイピンマイク
EME-19A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-21A	イヤホンマイク(ヘビーデューティ)
EME-23A	イヤホンマイク
EME-29A	イヤホンマイク(ヘビーデューティ 耳かけフック付)
EME-6	イヤホン(ストレートコード)
EME-26	イヤホン(カールコード)
ESC-40	ソフトケース

9-3 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありません。よくお確かめになってください。
処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。

症状	原因	処置
電源を入れても、何も表示しない。	バッテリーパックが接触不良をおこしている。	バッテリーパックの電極の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電をおこなう。
	電源スイッチを離すのが早すぎる。	電源スイッチを少し長めに押す。
音が出ない。 受信音がキャッチできない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除するか、相手のトーンに合わせる。
	PTTキーが押され、送信状態になっている。	PTTキーを離す。
周波数表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	リセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える値に設定する。
周波数、メモリーNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キー操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
レピーター機能が使用できない。	レピーター設定が間違っている。	レピーター機能の設定を確認する。
送信ができない。 送信すると、表示が点滅・消灯する。	電池が消耗している。	充電をおこなう。

症状	原因	処置
送信ができない。 送信しても応答がない。	PTTキーが確実に押されていない。	PTTキーを確実に押してから送信する。
	オフバンドになっている。(シフト設定時)	送信周波数の範囲内で送信する。
	周波数が違っている。	相手局の周波数と正しく合わせる。
受信中に表示が点滅・消灯する。	電池が消耗している。	充電をおこなう。

9-4 申請書の書きかた

本機は技術基準適合証明(技適)を受けた無線機です。本機に貼ってある技術基準適合証明ラベルに技適証明番号が記入されています。本機に付属装置(TNCなど)や付加装置を付ける時は、非技術基準適合証明無線機になりますので保証認定を受けて申請してください。

技術基準適合証明シール